



実践クラブ
もりぞの こうたろう
森園 浩太郎 議員

コミュニケーション

Q 7台の車両を効率よくフル稼働した場合、1日当たり何人利用可能か。需要の高まりで増車や車検も出てくるが、現在使用されている車両はランニングコストがかかり、採算が合わず持続するのは大変なので、今後協議をしてほしい。

A 運行を見直した10月は2944人で1日平均100人が利用した。午前4台、午後3台の計7台で3400人の輸送が可能だが、運転手の確保が必要なので注意していききたい。タクシー事業者が業態として持続可能になるよう、よく話し合う必要がある。

オルレ島原コース

Q ①初のイベントの講評、アンケート調査の意見は。②コースの維持管理はどのようにしていくのか。

A ①参加者の74%が満足と回答され好評だったと思う。コースがわかりづらいなど改善点もあったので、真摯に受け止めよりよいコースにしていきたい。②自然のコースの維持管理は多くのマンパワーが必要。今後は民間企業や地元を巻き込んだ維持管理の仕組みも検討していきたい。

熊本県との関わり

Q ①熊本県への災害時の支援。

②島原・天草・長島架橋構想及び九州西岸軸構想の推進について。

A ①熊本地震では協定を結んでいる熊本市に対し物的支援のほか、ごみ処理支援、人的支援として関係市町へ職員を派遣した。令和2年7月豪雨災害では、球磨村へ職員とトイレカーを派遣。球磨村には本年度も職員を派遣している。

②九州地方新広域道路交通ビジョン及び計画により示された広域道路による九州リングネットワーク形成イメージにおいて、九州全体を周回する大きなリングを構成する路線として構想路線に位置づけられている。長大橋構想が一旦見合わせられた状況下で唯一、息長く要請活動をしている。

Q 50年後、100年後も持続可能な島原市に向けて、島原・熊本間に有明海沈埋トンネル構想の声を上げてもらえないか。大規模災害時、緊急時の代替ルートに、熊本を通勤圏、通学圏に。企業誘致で人口減少、社会減を抑え、半島の基幹産業を守り、日本の食を守る観点から要望してほしい。

A 島原から熊本へトンネルがつかれば、いろんな可能性が広がる大きな構想だが、夢や希望を与える話として受け止めたい。

【その他の質問項目】
◇新型コロナウイルス感染症について



バラの会
くすのき しんすけ
楠 晋典 議員

日本一の防災環境都市を目指して3

Q 地域防災力充実強化大会において、昨年の球磨川の災害では嵩上げやしゅんせつなど、ハード整備は十分できていたと考えるが、予想以上の雨量のため、かつて経験したことのないところまで水かさがあがり多くの被害が出てしまったとのこと。

島原市でも同様なことが言えると思うが、ハード整備やソフトの防災意識の底上げとともに環境、特に気候変動には全市を挙げて取り組んでいかねばならないと思う。自主防災会の再編がされているが、防災と共に環境のことも考えていく組織にすべきと思うがどうか。

A 今年8月には経験したことがない長雨で雲仙市、南島原市では災害が起こってしまった。側溝や河川のこれまでの規格では、現在の気候変動での条件に対応できなくなってきたと感じる。環境問題はきちんと認識しながら、自主防災の組織づくりも大事であると思う。

島原城400年事業に向けて

Q お堀西側の石垣修復時の斜路について、景観上よくないということから撤去すべきと思うが、まだ石垣の未整備部分の補修が必要とのことで撤去できない現状であるが、その修復すべき石垣はいくつ修復するか。また、その復元する姿についてはめどがついているのか。

A 江戸末期の姿に復元したいと思っている。調査には時間がかかるので、具体的な時期は答えられないが、400年の時に間に合わせてほしいという市民の思いに答えるためにもスピードを上げて、そして一定の期限にある程度の方針を出す調査を行いたい。また、無電柱化、歩道の付け替えと（部分的にでも）一方通行化についてもできるだけ早く進めたい。

【その他の質問項目】

◇選挙投票率について

◇道路の整備について

◇温水プールの屋根（内側）の補修